

IT Topics & News

「Red Hat Enterprise 4及び5」が 2017年3月31日に同時サポート終了【IPA】

独立行政法人情報処理推進機構（略称=IPA）は、11月1日、レッドハット株式会社提供のOS「Red Hat Enterprise Linux 4」の延長サポート、及び「Red Hat Enterprise Linux 5」（以後、RHEL）の通常サポートが2017年3月31日、同時に終了（図5）することを踏まえ、システム管理者に速やかな移行を求めため、注意喚起を行った。

Linuxはオープンソースソフトウェアの基本ソフトとして、無償で利用可能なことから広く普及しており、RHELの場合、その用途は外部からインターネットでアクセスされるサーバーにも活用されている。そのため、サポート終了により修正パッチが提供されなくなると、インターネットを介して攻撃に晒される可能性が高くなり、速やかな移行が求められている（図6）。

また、RHELのソースコードをベースに開発された無償の「CentOS」のように、派生ソフトウェアが複数存在していることもOSSであるLinuxならではの特徵で、今回のサポート終了ではこうした派生ソフトウェアにもRHELのサポートポリシーが波及している。

レッドハットが提供する最新バージョンの「RHEL7」は64bit版のみで、今回サポート終了を迎えるRHEL4、5で32bit版を利用していた場合、「RHEL7」へのバージョンアップには大規模な改修が想定される。

2017年3月31日でサポートが終了するRHEL4は延長サポート期間の終了であり、これ以降のサポートは提供されない。一方、RHEL5は通常サポート期間の終了で、延長サポートは2020年11月30日まで有効。しかし、延長サポート期間に提供されるサポートは限定的となる。移行後のシステム利用を仮に2020年11月末以降も予定している場合、移行計画は現時点でRHEL7を念頭にするのが賢

明だろう。

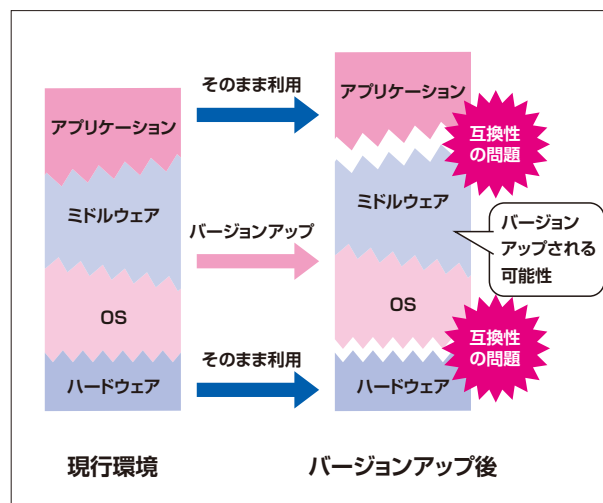
レッドハットによれば、通常サポート期間中に重大な影響を及ぼすと判断された脆弱性への修正がRHEL4に関して66件、RHEL5では484件あったという。RHEL5では通常サポート期間を迎えようとする現在においても引き続き脆弱性が発見されている。サポート終了後は脆弱性が発見されても修正されないため、外部からの攻撃を許してしまうなどの危険もはらんでいる。サポート終了後の継続利用は極力避け、速やかに移行を行う必要があるだろう。

※詳しくはIPAのプレスリリース「注意喚起：「Red Hat Enterprise Linux 4及び5」が2017年3月31日 同時サポート終了」を参照
vhttps://www.ipa.go.jp/

（図5）各バージョンのサポート期間（2016年11月1日現在）

OS	初期出荷日	通常サポート期間	延長サポート期間
RHEL4	2005年2月14日	2012年2月29日まで	2017年3月31日まで
RHEL5	2007年3月15日	2017年3月31日まで	2020年11月30日まで
RHEL6	2010年11月10日	2020年11月30日まで	未定
RHEL7	2014年6月10日	2024年6月30日まで	未定

（図6）移行における互換性のイメージ



平成 28 年熊本地震 震災復興支援サイト 「かせするもん。」ご紹介

平成28年に熊本地震により、被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げます。JECCはこれまで、被災された方々の一日も早い復興を願い、復興支援を行ってまいりました。

この度の熊本地震の復興支援を目的に、関連する各種情報を集約して発信するために開設されたインターネットサイト「かせするも



ん。」（「かせする」とは熊本弁で「お手伝いする」という意味）の活動に賛同し、JECCは、社員に対して当サイトへの閲覧を呼びかけるなど、活動への協力を推進しております。

JECCは今後も、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りし、支援を続けてまいります。